

享保十三年

『三芝居役者名寄』かほみせよいやんなふし

鳥居フミ子

ここに紹介する『三芝居役者名寄』は国立台湾大学研究図書館所蔵のもので、「酉年」の角書き及び内容から、享保十三年江戸の顔見世狂言（十一月）出演の役者の名寄であると判断される。半紙判のもの二枚をそれぞれ二つ折りにして『元祿芝居番附』と墨書した表紙に綴じてある。

番附を上下の二段に分け、上段に役者の名寄を記し、下段にはよいやな節に合わせて乱舞する役者の姿を描いている。上段の名寄には、まず役者の紋を記し、次に当時流行のよいやな節の口調をつかって、

七・七

七・七

ハ七・五・よいやんな

と評判を記している。

享保十三年の顔見世は、中村座では「兜ほしかぶと碁盤忠信」、市村座では「瀬吉野内裏きくすのよしのだいら」が行われている。この役者名寄には、この両狂言に出演した主だった役者達が並べられている。歌舞伎評判記『役者登志男』（享保十四年正月刊）にこの時の評判がのっているが、大体上上吉の評がなされている役者達ととりあげられている。市川団十郎、松本幸四郎、大谷広次などをはじめ、当時の江戸の歌舞伎界を代表する役者が並んでいる。

森田座はこの年の顔見世興行は休座していたようである。^{注1}しかし、この名寄には中村座・市村座以外に早川新勝・富沢半三郎をのせている。森田座は享保十四年正月には「東山長生殿」で大当りをとり、同年の『役者二和桜』にはこの二名の評判も出ている。この名寄は休座中の森田座から代表的な二名を加え、三芝居役者名寄の形を整えたものと思われる。

画像
非公開

画像 非公開

画像 非公開

画像 非公開

次に役者名寄の文辞の箇所を翻字する。翻字にあたって、紋は省略し、仮に整理番号を付した。また下段に、次のような説明を付した。

一行目 所属の座名、および顔見世狂言における役名（中村座は『兜ほしかぶとこぼんだのぶ碁盤忠信』、市村座は『潮吉きくすのよしのだいら野内裏』）

二行目 役者名（役柄）

かほみせよいやんなふし

西 年
三芝居役者名寄

よいなふし
かわり

(1)ではを松本ときわて見たし

さすかくすの木としの幸四郎

へすへもひろかれ三ついてうよいやんな

(2)いきたやほやのお七に三でう

たゝみう□□くねれかん太郎

へおちやをあげはのちんちとりよいやんな

(3)きりやうこつから大たにひろじ

三行目 紋について、『歌舞伎評判記集成』別巻所収紋索引により、頁、行、上よりの順位の順に記した。なお、紋は紋索引掲載のものと細部において相違のあるものが多いが、写真の不明を補うためもあって、大体一致したものを記すことにした。

鳥羽屋

板元 中村屋

吉田屋

市村座 楠多聞兵衛

松本幸四郎（立役）

紋 三二頁一五

中村座 しづか

三条勘太郎（若女形）

紋 三七頁二一八

中村座 梶原源太

やつこ又ないかじわらげんだ

へかじとくつわの十もんじよいやんな

(4) あづまずい市川だん十郎

ぬれとやつしに女中はなづむ

へいりもしよけいも日に三升よいやんな

(5) やつこ一とうとみ沢半三

やたけ心の□□ふかく

へ□□あてしか□□まとの弓よいやんな

(6) げいのあがりもはや川新かつ

□□やう一ふし花さき□□

へかつてみせたるもん所よいやんな

(7) わか衆一川上もんのすけ

わかいおなごのいろいろのちとり

へいわずと御きりやう丸に一よいやんな

(8) ぜにくなるみ□□□□しれん

大谷広次(立役)

紋 三九頁 三七

中村座 忠信

市川団十郎(立役)

紋 三六頁 一四

(森田座)

富沢半三郎(立役)

紋 三〇頁 三一四

(森田座)

早川新勝(若女形)

紋 三八頁 二一五

中村座 江間ノ小四郎

市川門之助(若衆形)

紋 三二頁 三一

市村座 しのづか

文にかゝれぬ五郎四がしよげい

へけにもしのつかいかの守よいやんな

(9) おぎのうはばにおとするかぜわ

こいとうなつけはや伊三郎

へついてめぐれかふちともへよいやんな

(10) はこねあしから□□／＼さかた

あがる半五郎□□かき諸げい

へあてよやはつるもん所よいやんな

(11) ふみにやどかせふりそでさきの

御なさけ心□□□□と三わ野

へまさきよたれはのほかけふねよいやんな

(12) 日のでさわ村じつ宗十郎

かわらやねでもさじきはぬれる

へ丸にいのあるいろおとこよいやんな

(13) あまのかく山下きんさくが

鳴見五郎四郎(敵役)

紋 三六頁 三一二

市村座 さぬき局

荻野伊三郎(若衆形)

紋 三六頁 三一七

中村座 覚範

坂田半五郎(実悪)

紋 三六頁 三一

市村座 勾当内侍

袖崎三輪野(若女形)

紋 三七頁 二一

中村座 義経

沢村宗十郎(立役)

紋 三三頁 一七

市村座 妹菊水

ぬれとぶどうとしようたんばから

へ三つの花さく丸の内よいやんな

(14) じつとあくとの中じま三浦□

かげゆざへもんかんざへもんに

へよくもにたりや二かいかさよいやんな

(15) 竹の丞ずとなにたちはなの

にほひこうばし□□有よしの

へ□□の□いりと大なだよいやんな

(16) げいのみなとに津川のふ□□

しだい／＼にかもんのはん□

へ□□も三升と二せのやくそくよいやんな

(17) つ□かや□にるげい□□川の

たんなあがりのだんぞうなれば

へ□□三□□りう又となしよいやんな

(18) とざいなんぼくうきたつつるや

山下金作（若女形）

紋 三三頁 二一

市村座 かげゆ左衛門

中嶋三浦右衛門（実悪）

紋 三三頁 三六

市村座 義貞

市村竹之丞（太夫本）

紋 三三頁 二一三

中村座 忠信女房こわた

津川かもん（若女形）

紋 三三頁 二一

市村座 大森彦七

市川団蔵（立役）

紋 三三頁 二一

中村座 弁慶

しよげいおかしく又おもしろく

へなんだべんけい大もんじよいやんな

(19) ほかへやらじやばんとう彦三

その名しだいに高のりなれば

へほうらい山ともまんのつるよいやんな

(20) せみの小川のりゝしきこはねあく

のなだいできはせん五郎

へなとり川のじいへのもんよいやんな

(21) こい雨ふりそでさきいせの

うみはあこぎかいろすきむすめ

へたすけたま□□玉のもじよいやんな

この「役者名寄」は、当時流行のよいやんなふしを使って、役者の評判を記しているところに特色がある。概して最初の七・七・七・七音では顔見世狂言の折の役についてよんだり、また、その役者の特色などをうたい、最後の七・五音では紋所についてのべ、「よいやんな」と結んでいる。ほとんど祝いはめる言葉が連

鶴屋南北（道外形）

紋 三三頁 一一〇

市村座 備後三郎

坂東彦三郎（立役）

紋 三三頁 二一二

中村座 越中ぜんじ

小川善五郎（実悪）

紋 三三頁 三一一〇

中村座 京の君

袖崎伊勢野（若女形）

紋 三三頁 三一一八

ねられている。『役者登志男』の評判と比べると、その洒落の態度が明白となる。主なものを次にあげてみよう。

(1) 楠多聞兵衛の役を演じて好評だったので「さすがくすの木」といっている。

「すへもひろかれ三ついてう」は、幸四郎の紋所三つ銀杏を

祝っている。

(2) 「いきたやはやのお七に」は、三条勘太郎が八百屋お七を演じて好評だったので、「八百屋お七／＼」ともてはやされていた。それで「生きた八百屋のお七」といったのである。三条勘太郎について『役者登志男』には、

御江戸地生ばへの女形近郷きんかうの人々迄・ひいきつよく・八百屋お七／＼と・今に申出して称美せうびいたす。

とある。また『役者色紙子』（享保十三年三月刊）には

梅の香かにかへぬ桜色・どふもいへぬ君が芸ぶり・わけて此度の蓬萊山の虎のお役め・八百屋お七以来の大当り・

とある。三条勘太郎というとすぐに八百屋お七を連想するほどの当り役だったのである。

(3) 「きりやうこつから大たに」は大きいと大谷のかけ言葉である。

梶原源太を演じて好評だったので「やつこ又なきかじわらげんだ」と言った。

「くつわの十もんじ」は紋所をいっている。

(4) 「あづまずい市」は市川団十郎と随一ずいのかけ言葉になっている。江戸一番の役者という意のはめ言葉である。『役者登志男』に

看板かんばんのごばん忠信・諸見物を打てのかけ声・今此人につゞくものはない・随市川ずいの御名人／＼

とあるのに一致している。

「いりもしよけいも日に三升」は紋所をいう。

(6) 「かつとみせたるもん所」は、紋が丸に白ぬきの勝の字であることをいう。

(7) 「わか衆一川」は『役者登志男』に

三ヶ津若衆形の随一ずいとは・この君の事・

とあるように、「若衆の随一」という意と、名の市川とをかけている。

「丸に一」は丸に一文字の紋所をいう。

(8) 「けにもしのつかいかのかみ」は、しのづか伊賀ノ守役の好評であったことをいう。

(9) 「おぎのうはば」は姓「荻野」をいう。

「こいとうなつけ」は若衆方だからいったもの。

「ふちともへ」は紋所をいう。

(10) 「はこねあしから」は「坂」をいうための序詞。

「あてよやはつるもん所」は矢羽の紋所だからいったもの。

(11) 「まさきよたれほのほかけふね」は紋所をいう。

(12) 「日のでさわ村」は『役者登志男』に

今日の出の和事師の随一／＼

とあるのと一致する。

「かわらやねでもさじきはぬれる」とは、顔見世狂言で義経役を演じ、門之助との

からかさしながらのぬれ（『役者登志男』）

が評判であったことを洒落れたもの。

「丸にいのある」は紋所が丸にいの字であることを言い、色男の序にしている。

(13) 「三つの花さく丸の内」は紋所をいう。

(14) 「じつとあくとの」は『役者登志男』に
今実悪の大将・

とあるように、実悪の役者として第一人者であることをいう。

「かげゆぎへもん」は長崎かげゆ左衛門の役を演じたことをいう。

「よくもにたりや二かいかさ」は紋所をいう。

(15) 「竹の丞ず」は名と、「上手」をかける。

「なにたちばなの」は橘の紋所をいう。

(18) 「とぎいなんぼく」は祝い言葉と南北の名とをかける。

「うきたつつるや」は「鶴屋」の名をいう。

「なんだべんけい」は弁慶役をいう。

「大もんじ」は丸に大文字の紋所をいう。

(19) 「ばんとう彦三」は名をいう。

「その名しだいに高のりなれば」は『役者登志男』に

当年はお相手よければ、去年に倍（ばい）まして、当りは慥（たしか）と存る、

とあるように、江戸に下って以来次第に評判が高くなったことをいう。

「ほうらい山」は鶴の縁語。

「まんのつる」は紋所をいう。

(20) 「あくのなだいできはせん五郎」は、実悪の役柄ではあるが、その役柄に反して性根は善人で善五郎という洒落たもの。

「川のじ」は紋所をいう。

(21) 「こいの雨ふり」は袖をいうための序。

「そでさきいせの」は名をそのままよみこむ。

「玉のもじ」は紋所をいう。

以上のように、短い表現の中に、役者の役柄や特色をうたい、紋所をよみこんでいて巧みである。洒落やユーモアも含まれている。『役者登志男』の評と一致しているのは、この評判記によって作られたためであろうと考えられる。

この「役者名寄」には標題の横に

かほみせよいやんなふし

とあり、また下段の板元名の上には

よいなふしかはり

とある。よいなふし（よいやんなふし）のかえうたの形にした名寄であることを誇示しているのである。

よいやな節は享保頃流行していた歌謡である。藤田徳太郎氏の『近代歌謡の研究』には、享保十六年の『三廓盛衰記』のよいやな節の中に

皐月雨程恋したはれて今は秋田のイヨ落し水

とあり、

実に流行歌としても、民謡としても、生命の長い傑作であった。

と記されている。「皐月雨程……」と、七・七・七・七・五の音数で歌い、「よいやな」とはやし言葉で結ばれていたのであろう。藤田氏によれば、このよいやな節は、延宝以前から一般に流行していた「秋田節」である。秋田節は地名ではなくて歌詞の秋田から取ったもので、元来は民謡であったと思われるが、延宝以前には流行唄として歌われたものである。半井卜養の『酔笑庵之記』に

古き小歌ぞ秋田節

とあり、同じ人の『卜養狂歌集』に

その頃世にはやりし秋田ぶしといふ小歌うたふ。そのうたに、

今は秋田のてんとおとし水さんこゑしゑいとうたふ

とある。また近松門左衛門の浄瑠璃『心中万年草』下之巻（宝永元年）^{注2}には

五月雨よほど恋ひしたはれてついな秋田のよ落し水

と出ている。『落葉集』（元禄十七年刊）の流行唄「おもて見やれ」にも

さつき雨ほど恋ひ忍ばれて今は秋田の落し水

とある。『山家鳥虫歌』（『諸国盆踊唱歌』）の河内の部にも

五月雨ほど恋ひ忍ばれて今は秋田の落し水

とあり、三重県その他に歌われる田植歌にもあり、佐渡の盆踊にも歌われている。

よいやな節は「七七七五よいやな」の詩型を持ち、延宝の頃から元禄享保にかけて流行し、その後も地方の民謡として長く歌われた歌謡である。現行の民謡にも四国から九州の各地に「よいやな節」がある。愛媛県今治市を中心に越智郡、さらに伊予郡地方から南宇和郡にわたれる「今治よいやな」（一般には単に「よいやな節」といわれる）というお座敷唄がある。これが九州の豊後、阿蘇方面にも流れて長詩型の祝い唄となり、さらに長崎県松浦郡福江島や五島列島などにも「よいな節」として歌われている。^{注3}

よいやな節はこのように歴史の古い、息の長い流行歌謡である。藤田氏の云われるように享保頃には相当流行していたと考えられるが、その資料はほとんど残されていないようである。この番付は、享保十三年の頃、よいやな節が流行していたことの一つの証拠としても注目されるものであろう。そして、下段には三味線をひく女の姿が描かれ、男女がそれに合わせて踊っている。おそらくよいやな節を唄い踊っているのであろう。よいやな節がこの享保十三年の頃、三味線を伴奏楽器としていたことも知られるのである。

注1 享保十三年の顔見世狂言の評判をのせる『役者登志男』（享保十四年正月刊）には、中村座・市村座二芝居の役者についてのせている。『歌舞伎年表』にも森田座の興行は記されていない。

注2 『鸚鵡籠中記』にこの年の上演記録があることから、この年以前の作と推定される。

注3 浅野建二氏の御教示による。氏はこの地方の現行よいやな節を多く蒐集していられる。

（本学教授）